

保健だより

奈良中学校 保健室 : R7. 2. 14



< 学校教育目標:「世界を小とせよ」奈良中生

知性をみがく生徒 愛情深き生徒 体を鍛える生徒 >

1学年 中学生から考える『生命の授業』



今年度も『くまがやピンクリボンの会』(代表:栗原和江様)から5名の講師の皆様をお迎えして、熊谷市『中学生から考える～生命の授業』を開催しました。

中学生ががん教育を通して、生命(いのち)の大切さを考えるとともに、がん予防や検診の重要性を知る、大変有意義な機会となりました。



講師の『くまがやピンクリボンの会』は2008年に熊谷市の市民活動として設立された団体です。乳がんや子宮頸がんを始め、がん早期発見、早期治療につながる検診率向上のための活動をされています。「中学生から考える『生命の授業』」では、ご自身やご家族の経験を通して私たちに「命の大切さ」や「検診の重要性」を伝えてくださっています。

自分の命には限りがある。生きていることの奇跡を感じながら、一日一日を大切に、自分の命も他の人の命も、全ての命を大切にしたいと仰っていました。そして、最後に、今日の『生命の授業』でのお話をおうちの方にして差し上げて下さいというメッセージがありました。



～ 生徒の振り返りや感想の一部を紹介します ～

○今日の授業を受けて、あなたが初めてわかったことは何ですか？

- ・2人に1人ががんで亡くなること。 ・笑うことでがんのリスクが減るということ。
- ・男性でも乳がんになること。
- ・がん細胞が一日に約5000個も増えていてそのすべてを免疫細胞が消してくれていること。

○今日の感想を教えてください

- ・命は一つしかなく、今生きていることが奇跡だと改めて思った。
- ・今までガンになったら100%死ぬと思っていたけど、早期発見ができれば確率が低くなると知った。こういうがんの知識を広めていきたいと思った。
- ・私も子宮頸がんのワクチンを打っていたけれど、どんなことに効果的なのかがよくわかっていなかったから、今回知ることができてよかった。
- ・なくなった話を聞いて涙をこらえるので一生懸命でした。病院嫌いだけど行こうと思った。